

# 2021 年

## 天皇杯全日本レスリング選手権

### 報道資料（各階級展望）

【12月16日（木）】＝8階級（試合開始10時）

男子フリースタイル 70・97・125kg 級／男子グレコローマン 77・82・87kg 級／女子 59・76kg 級

【12月17日（金）】＝8階級（試合開始10時）

男子フリースタイル 65・79kg 級／男子グレコローマン 60・67・130kg 級／女子 55・65・72kg 級

【12月18日（土）】＝8階級（試合開始10時）

男子フリースタイル 61・74・86kg 級／男子グレコローマン 63・97kg 級／女子 57・62・68kg 級

【12月19日（日）】＝6階級（試合開始10時）

男子フリースタイル：57・92kg 級／男子グレコローマン：55・72kg 級／女子：50・53kg 級

《2022 年度各選手権大会代表選考について》＝11月10日、協会ホームページに掲載

シニア世界選手権（9月、セルビア）は例年通りで、今大会と2022年明治杯全日本選抜選手権が選考大会。優勝者が異なった場合はプレーオフで代表を決める。4年に1度のアジア大会（9月、中国＝3スタイル各6階級）は、エントリーの締め切りが4月末のため、今大会のみが選考大会。

両大会の開催が同時期であるため、同一選手の派遣は難しいと判断。両大会で代表資格を得た選手は、原則としてアジア大会の出場を推奨する。ただし、選手が世界選手権出場を強く希望した場合は、選手の意思を尊重する。

4月のアジア選手権（場所未定）は、2021年度天皇杯全日本選手権大会の成績より同階級上位選手（1位～3位まで）を優先に選出する。

# 第1日(12月16日=木)

## 【男子フリースタイル 70kg 級】

世界選手権代表の基山仁太郎は 74kg 級にエントリー。空いた座を、全日本選抜選手権で基山を破って優勝の鈴木歩夢(早大)、同2位の阿部宏隆(サコス)、同3位の成國大志(ゴールドキッズ)が争うか。

大野恵太郎(日体大)が学生二冠王(全日本学生選手権、全日本大学選手権)に輝き、急成長している。一気に日本の頂点に登り詰める可能性も十分。

全日本学生選手権2位の永松麗(徳山大)、全日本大学選手権2位の坂野秀堯(日大)、東日本学生春季新人戦優勝の高田熙(日体大)らが、その後を追う。

---

## 【男子フリースタイル 97kg 級】

世界選手権代表の石黒峻士(新日本プロレス職)が再度、日本代表の座を勝ち取るか。2017年に92kg級で優勝しているが、この階級では初優勝を目指す。

今年は、アジア選手権では銅メダルを獲得し、世界選手権ではオリンピックV2のアブデュラシド・サデュラエフ(ロシア・レスリング連盟)と対戦。それらの経験を活かせるか。

全日本選抜選手権3位の園田平(自衛隊)、同4位の山崎祥平(早大)、全日本学生選手権優勝の吉田ケイワン(日大)らが挑む。吉田は全日本大学選手権では125kg級を制覇。実をつけている。

---

## 【男子フリースタイル 125kg 級】

世界選手権代表の山本泰輝(自衛隊)が大きくリードしている状況と言えよう。2年連続4度目の優勝を目指す。今年はアジア選手権のほか、東京オリンピック世界最終予選にも出場の機会をもらった。国際大会の経験を見せる闘いで勝ち抜けるか。

全日本選抜選手権2位の福井裕士(天理大大学院)がベテランの味を發揮して、どう挑むか。同3位の森右秀(中京学院大)、全日本学生選手権優勝の出頭海(中大)の学生選手が、山本の牙城に迫れるか。

= 第 1 日 (12 月 16 日 = 木) =

## 【男子グレコローマン 77kg 級】

東京オリンピック 3 位の屋比久翔平は不出場。全日本選抜選手権優勝でアジア選手権と世界選手権代表の櫻庭功大 (自衛隊) に、同 2 位で学生二冠王に輝いた日下尚 (日体大) がその牙城を崩せるか。

櫻庭は 4 月にアジア選手権、10 月に世界選手権を経験。世界では 8 位に入賞し、世界で通じる実力をつけつつある。日下は 2019 年に 72kg 級で優勝し、男子グレコローマンの最年少記録を更新。77kg 級にアップし、今年は学生二冠 (全日本学生選手権、全日本大学選手権) を獲得と、こちらも昇り調子だ。

全日本選抜選手権 3 位の前田明都 (レスターホールディングス)、全日本学生選手権 3 位の山田脩 (日体大) らが、両者の牙城に迫れるか。

---

## 【男子グレコローマン 82kg 級】

2019・20 年優勝の向井識起は 87kg 級へエントリー。空いた座を、全日本選抜選手権 2 位の川村洋史 (自衛隊) と同 3 位の藤井達哉 (後藤回漕店) のほか、2019 年世界選手権代表の岡嶋勇也 (警視庁) が争う。

川村は全日本レベルの大会 (全日本選手権、全日本選抜選手権)、3 大会連続で 2 位だけに、その壁を破りたいところ。社会人の出場できる大会が軒並み中止になり、3 選手とも実戦から離れしまった。影響はあるか。

その間隙について、全日本大学グレコローマン選手権優勝の谷口空良 (青山学院大)、全日本学生選手権優勝の樋口徹心 (日体大) の学生勢が躍進せねばなるまい。

=第1日(12月16日=木)=

## 【男子グレコローマン 87kg 級】

世界選手権代表の鶴田峻大は 97kg 級にエントリーしたが、自衛隊選手によるハイレベルな闘いが続きそう。この階級の第一人者で東京オリンピックのアジア&世界最終予選に挑んだ**角雅人(自衛隊)**が、パリ・オリンピックへ向けていいスタートを切るか。昨年の決勝で角を破って優勝した**阪部創(自衛隊)**が、再び角の牙城を崩し、世代交代を決定づけるか。

82kg 級で全日本レベルの大会を勝ち続けている**向井識起(自衛隊)**がこの階級にエントリーした。今年はアジア選手権 3 位のあと、世界選手権でも白星を挙げ、世界で通用する実力を身につけつつあるが、87kg 級で通用するか。

全日本選抜選手権 3 位で、全日本学生選手権 3 大会連続優勝の**奈須川良太(神奈川大)**らの学生選手が台頭できるか。

---

## 【女子 59kg 級】

世界選手権代表の花井瑛絵は不出場、昨年 2 位の稲垣柚香は 62kg 級へエントリー。全日本選抜選手権 2 位の**田南部夢叶(日体大)**と 2019 年優勝の**男網さら(至学館大)**とが争うか。負傷明けの男網は 10 月の西日本学生選手権に出場して優勝し、11 月の全日本学生選手権でも田南部を破って優勝と好調。

ジュニアクイーンズカップ優勝で全日本選抜選手権 4 位の**徳原姫花(自衛隊)**が台頭するか。

---

## 【女子 76kg 級】

東京オリンピック 5 位の皆川博恵は不出場。昨年優勝の**鏡優翔(東洋大)**と、今年全日本選抜選手権とプレーオフで雪辱した**松雪泰葉(至学館大)**の闘いが再現されるか。

10 月の全日本学生選手権決勝では松雪が勝ったが、いずれの試合も大接戦。終了間際に勝負が決まった試合もある。今回も最後の 1 秒まで目が離せない試合になるか。

全日本選抜選手権 3 位の**齋藤未来(小田開発工業)**、4 位の**長島水城(大東文化大)**が優勝争いに割り込めるか。

## 第2日(12月17日=金)

### 【男子フリースタイル 65kg 級】

東京オリンピック優勝の乙黒拓斗は不出場。昨年大会と今年 of 全日本選抜選手権を制して世界選手権に出場した山口海輝(日体大)が連覇を目指す。11月の全日本大学選手権で2連覇を達成して好調。

昨年2位の安楽龍馬(早大)、全日本学生選手権優勝の諏訪間新之亮(国士舘大)が、その牙城に挑む。

全日本学生選手権優勝2位の堤泰樹(日体大)、同3位の徳力貫太(専大)、西日本学生選手権3連覇の秋山拓未(九州共立大)らの上位進出はあるか。

---

### 【男子フリースタイル 79kg 級】

昨年優勝で今年の世界選手権5位の吉田隆起は86kg級にエントリー。今年 of 全日本選抜選手権を制しながらプレーオフで敗れた高橋夢大(日体大)が強さを見せるか。全日本学生選手権で勝って初の学生タイトル獲得、東日本学生選手権ではグレコローマンで優勝と勢いをつけている。

全日本選抜選手権2位の阿部侑太(秋田県スポーツ協会)、同4位の村山貴裕(自衛隊)らが優勝を引き寄せることができるか。

---

### 【男子グレコローマン 60kg 級】

東京オリンピック2位の文田健一郎は不参加。全日本選抜選手権優勝の鈴木絢大(レスターホールディングス)は、6月の「ピトラスンスキ国際大会」(ポーランド)2位、10月の世界選手権では7位と、国際舞台で通じる実力をつけている。

全日本選抜選手権2位の稲葉海人(日体大)は全日本学生選手権を制して好調。同3位の全日本大学グレコローマン選手権優勝の河名真偉斗(専大)、同4位の藤波諒太郎(自衛隊)が浮上できるか。

昨年 of 全日本大学グレコローマン選手権63kg級1年生王者の竹下航生(拓大)は、今年 is 大学2位が最高で、優勝を手にはできなかった。再飛躍のきっかけをつくりたい。

=第2日(12月17日=金)=

## 【男子グレコローマン 67kg 級】

東京オリンピックのアジア&世界最終予選に出た高橋昭五は 72kg 級にエントリーし、世界選手権代表の下山田培は引退。

昨年 2 位の遠藤功章(東和エンジニアリング)が優勝候補と考えられるが、6 月の全日本選抜選手権では曾我部京太郎(日体大)が準決勝で遠藤を破り 2 位へ躍進している。曾我部は 11 月の全日本学生選手権で優勝し、実力は急上昇中。どちらが日本一の座を勝ち取るか。

全日本選抜選手権 3 位の井ノ口崇之(自衛隊)、全日本大学グレコローマン選手権優勝の二俣友明(日体大)らも優勝を狙える実力は持っている。

---

## 【男子グレコローマン 130kg 級】

この階級の第一人者、園田新(ALSOK)が 8 連覇を目指す。今年は東京オリンピックのアジア&世界最終予選と世界選手権に出場。外国選手相手に着実な進歩が見られるだけに、これまでとは違った強さが期待される。

昨年 2 位の奥村聡太(拓大)、全日本選抜選手権 2 位の貝塚賢史(茨城・霞ヶ浦高職)、全日本学生選手権 2 位の松岡太一(日体大)らがどう挑むか。キャリア 2 年半で全日本大学グレコローマン選手権を制した小畑詩音(日体大)がこの階級の勢力を変えるか。

---

## 【女子 55kg 級】

昨年優勝で世界選手権も制した櫻井つぐみは 57kg 級へエントリー。エントリー全選手が学生となった争いは、全日本選抜選手権 2 位で全日本学生選手権優勝の今井佑海(日大)と昨年 2 位の田村生吹(日体大)が優勝を争うか。

昨年大会での両者の対戦は、田村が 8-0 で勝っているが、その大会時点で今井は 55kg 級に上げたばかり。それから 1 年以上がたち、実力を伸ばしているはず。

全日本学生選手権 3 位の嶋田英莉(育英大)と吉柴未彩輝(大東大)、西日本学生選手権優勝の高山凜子(至学館大)らが加われるか。

=第2日(12月17日=金)=

## 【女子 65kg 級】

昨年の優勝者で今年は全日本選抜選手権優勝、世界選手権 2 位と好調の森川美和(日体大)が連覇を目指す。この間、東日本学生選手権でも優勝しており、積極的な実戦練習を積んでいる。

2018 年世界選手権 3 位・U23 世界選手権優勝の源平彩南(アイシン)が負傷から復帰し、全日本選抜選手権 68kg 級 3 位を経てこの階級に戻ってきた。世界で通じた実力を見せるか。全日本選抜選手権 3 位の今井海優(自衛隊)が浮上できるか。

---

## 【女子 72kg 級】

5 月の全日本選抜選手権優勝で世界選手権も制した古市雅子は 68kg 級にエントリー。2019 年優勝の進藤芽伊(クリナップ)が昨年の 68kg 級 3 位を経て 2 年ぶりの優勝を目指す。全日本選抜選手権は古市に敗れての 3 位。チャンピオン奪還を目指す。

昨年 2 位の小林奏音(専大)、全日本選抜選手権 2 位で全日本学生選手権では 1 年生チャンピオンに輝いた新倉すみれ(神奈川大)らが進藤のチャンピオン返り咲きを阻止できるか。

## 第3日(12月18日=土)

### 【男子フリースタイル 61kg 級】

世界選手権 3 位の長谷川敏裕は 57kg 級にエントリーする一方、57kg 級で東京オリンピック代表を逃した樋口黎（ミキハウス）がこの階級に出場する。実績からすれば優勝候補の最右翼となるろう。

アジア選手権 3 位の嶋江翔也（佐賀県協会）が地方教員のハンディを乗り越えて挑む。57kg 級でのオリンピック挑戦を経てこの階級に戻った 2018 年世界選手権代表の小柳和也（自衛隊）が優勝争いに顔を出す可能性は十分。

世界選手権代表決定プレーオフで敗れて世界選手権出場は逃したが、昨年大会優勝の小川航大（日体大）、全日本学生選手権で小川を破った 2020 年アジア選手権 3 位の榊流斗（山梨学院大）、全日本大学選手権で小川を破った森川海舟（拓大）、全日本選抜選手権 2 位の清岡幸太郎（日体大）らの学生選手が、樋口への“挑戦権”をつかむか。

---

### 【男子フリースタイル 74kg 級】

東京オリンピック代表の乙黒圭祐は不参加だが、世界選手権 70kg 級代表の基山仁太郎（日体大）がこの階級にエントリーし、激戦が予想される。全日本選抜選手権とプレーオフを勝ち抜き、20 歳にしてこの階級の世界選手権出場を果たした佐藤匡記（山梨学院大）との日本代表同士による優勝争いが展開されるか。

全日本選抜選手権で佐藤の進撃を許した昨年優勝の木下貴輪（クリナップ）と、2020 年アジア選手権 3 位の高谷大地（自衛隊）のリベンジなるか。階級アップして 2 年が経った昨年 4 位の志賀晃次郎（警視庁）もワンランクアップを目指す。

昨年 79kg 級 3 位の梅林太朗（金太郎ホーム）がこの階級にエントリーし、どこまで勝ち上がるか。全日本学生選手権優勝の深田雄智（早大）は全日本大学選手権で佐藤を破った。全日本大学選手権で 1 年生王者に輝いた小柴伊織（日体大）、同 2 位の礪屋亮太郎（日大）らの学生選手の台頭も見込まれる。



= 第3日 (12月18日=土) =

## 【男子フリースタイル 86kg 級】

東京オリンピック代表の高谷惣亮は 92kg 級へ出場し、世界選手権代表の石黒隼士は不出場。79kg 級で世界選手権 5 位の吉田隆起 (自衛隊) が階級を上げてエントリーした。全日本選抜選手権 2 位の松雪泰成 (レスターホールディングス) や、学生二冠王 (全日本学生選手権、全日本大学選手権) の白井達也 (日体大) と争うか。

74kg 級で 2019 年世界選手権 5 位の奥井眞生 (国士舘大) も、2 階級アップしてこの階級に出場する。一気に栄冠をつかむことができるか。

昨年 2 位の白井勝太 (HAKOBEE SPORTS)、全日本選抜選手権 3 位の山崎弥十朗 (サイサン)、2020 年アジア選手権を制した山田修太郎 (山梨学院大) らがトップ戦線に浮上できるか。

---

## 【男子グレコローマン 63kg 級】

世界選手権 3 位の清水賢亮 (拓大) が 2 連覇を目指す。今年はアジア選手権も出場しており、国際舞台での経験をいかして勝ち抜きたいところ。全日本選抜選手権で優勝しながら、清水との世界選手権代表決定プレーオフで敗れた山田義起 (金沢まいもん寿司) がリベンジし、2 年ぶりの優勝を手にするか。

全日本選抜選手権 2 位の長澤勇人 (和歌山県協会)、同 3 位の矢部和希 (栃木県スポーツ協会) の社会人選手、全日本大学グレコローマン選手権優勝の小柴亮太 (日体大)、全日本学生選手権優勝の池田龍斗 (日体大) らの学生勢が、両者の壁を乗り越えることができるか。

---

## 【男子グレコローマン 97kg 級】

東京オリンピックアジア & 世界最終予選に出場した奈良勇太 (警視庁) が、東京オリンピック出場を逃した後の全日本選抜選手権に出場して優勝するなど、すぐにパリ・オリンピックを目指す体勢をとった。その姿勢を活かせるか。

全日本選抜選手権 87kg 級優勝で世界選手権にも出場した鶴田峻大 (自衛隊) が階級を上げて挑む。初の 97kg 級での試合はどうか。昨年優勝の天野雅之 (中大職) が再浮上するか。全日本選抜選手権 2 位の仲里優力 (日体大) が学生二冠王者 (全日本学生選手権、全日本大学グレコローマン選手権) に輝くなど実をつけている。

= 第 3 日 (12 月 18 日 = 土) =

## 【女子 57kg 級】

東京オリンピック優勝の川井梨紗子は不出場。世界選手権 3 位で 3 連覇（他階級を合わせ 4 度目の優勝）を目指す南條早映（至学館大）に、同 55kg 級優勝の櫻井つぐみ（育英大）が階級をアップして挑む。世界トップレベルの闘いが展開されそう。南條は世界選手権のあと全日本学生選手権に出場して優勝し、実戦を積んで全日本選手権に臨む。櫻井は 6 月の東日本学生選手権で 57kg 級を経験済み（優勝）。

昨年 2 位で、今年 of 全日本選抜選手権 3 位の永本聖奈（至学館大）が優勝争いに加われるか。インターハイ・チャンピオンの山口夏月（愛知・至学館高）の上位進出はあるか。

---

## 【女子 62kg 級】

東京オリンピック優勝の川井友香子は不出場。世界選手権 3 位の尾崎野乃香（慶大）が、高校生だった昨年に続く日本一を目指す。優勝すれば、慶大の学生・OB の全日本チャンピオンは、1959 年の島村保行（男子フリースタイル 63kg 級）以来、62 年ぶりとなる。

65kg 級で 2019 年アジア選手権優勝の類家直美（至学館大）、59kg 級で昨年 2 位の稲垣柚香（至学館大）がこの階級にエントリーしたことで、熾烈な闘いが予想される。類家は今年 of 全日本選抜選手権は 65kg 級 2 位、稲垣は同 59kg 級 3 位。階級へ変えて好スタートを切れるか。

昨年 2 位の小玉彩天奈（早大）、今年 of 全日本選抜選手権 2 位の坂野結衣（警視庁）が優勝争いに加われるか。

---

## 【女子 68kg 級】

東京オリンピック 5 位の土性沙羅は不出場。世界選手権 72kg 級優勝の古市雅子（自衛隊）がこの階級にエントリーし、世界選手権 2 位の宮道りん（日体大）に挑む。

古市は東京オリンピックを目指して 2019 年には 68kg 級で闘い、全日本選抜選手権 2 位（土性沙羅に黒星）、U23 世界選手権優勝、全日本選手権 3 位（松雪成葉に黒星）という成績がある。2 年ぶりの 68kg 級はどうか。宮道は世界選手権初出場での好成績をつなげられるか。

昨年優勝の松雪成葉（至学館大）、2019 年 62kg 級優勝の石井亜海（育英大）、ジュニアクイーンズカップ優勝の寺本鈴（山梨学院大）が優勝争いにからむことができるか。

# 最終日(12月19日=日)

## 【男子フリースタイル 57kg 級】

東京オリンピック代表の高橋侑希は不出場。全日本選抜選手権優勝の**阿部敏弥(国士舘大職)**が、再度頂点に立つか。2019年世界ジュニア選手権優勝を経て、今年のシニア世界選手権では7位入賞と、世界の舞台でも台頭中。

世界選手権 61kg 級で銅メダルを獲得した**長谷川敏裕(三恵海運)**が階級を下げてこの階級にエントリーした。世界選手権代表 2 人の優勝争いもありうる。

全日本選抜選手権 2 位の**藤田雄大(自衛隊)**、同 3 位の**新井陸人(自衛隊)**の自衛隊勢、アジア選手権 3 位の**竹下雄登(日体大)**、学生二冠王者に輝いた**弓矢暖人(日体大)**の日体大勢がどう挑むか

---

## 【男子フリースタイル 92kg 級】

昨年優勝で東京オリンピック 86kg 級代表の**高谷惣亮(ALSOK)**がこの階級にエントリー。本来より上の階級になるが、優勝候補の筆頭と言っていいだろう。優勝すれば、史上 3 人目の大会「11 連覇」であり、5 人目の「11 度優勝」となる。

全日本選抜選手権を制して 2 度目の世界選手権出場を果たした**大津拓馬(山梨学院大)**が、どう闘うか。11月の全日本大学選手権では不調だっただけに、立て直して来年へつなげたいところ。

昨年 2 位で今年はアジア選手権出場を経験した**山中良一(愛知・名古屋工高教)**、全日本学生選手権で 1 年生王者に輝いた**三浦哲史(拓大)**が浮上するか。

=最終日 (12月19日=日) =

## 【男子グレコローマン 55kg 級】

世界王者・**松井謙 (日体大)** とアジア王者・**塩谷優 (拓大)** の激突が実現するか。松井は「20歳 8ヶ月 23日」で、塩谷は「19歳 5ヶ月 17日」でそれぞれの王者となり、ともに日本男子グレコローマンの最年少王者記録を更新(塩谷は男子フリースタイルを通じて最年少のアジア王者)。世界トップレベルの闘いが予想される。

両者は、ともに高校生だった 2018 年全日本選手権で対戦し、松井がテクニカルフォールで快勝。2019 年 JOC ジュニアオリンピックカップでの対戦でも松井が勝ったが、4-2 と試合内容が接近していた。

全日本選抜選手権 2 位の**尾西大河 (佐賀・佐賀工高)** は、全国高校生グレコローマン選手権でも勝ち実力をつけている。全日本学生選手権優勝の**荒木瑞生 (九州共立大)**、同決勝の終了間際に逆転負けした**塩崎泰隆 (日体大)** らが優勝争いに加われるか。

---

## 【男子グレコローマン 72kg 級】

全日本選抜選手権を制して世界選手権に出場したベテラン、**井上智裕 (FUJIOH)** と、67kg 級で東京オリンピックを目指した**高橋昭五 (三恵海運)** の争いとなるか。

兵庫・育英高時代の監督(井上)と教え子(高橋)。両者は 2015 年全日本選手権決勝で対戦し、井上が元恩師の実力を発揮してテクニカルフォールで快勝。以後、階級が違って対戦はない。昨年大会で闘う可能性もあったが、井上の棄権で実現しなかった。

昨年 2 位の**堀江耐志 (自衛隊)** は 4 月にアジア選手権に出場して銅メダル獲得。全日本選抜選手権でも 2 位をキープし、井上と高橋に挑む一番手となろう。

全日本大学グレコローマン選手権 1 年生王者の**西田衛人 (専大)** は、その後の東日本学生秋季選手権・新人戦で両スタイル優勝と勢いをつけている。東日本学生春季新人戦優勝を経て全日本学生選手権を制した**矢部晴翔 (日体大)** らの世代交代に挑む。

=最終日 (12月19日=日) =

## 【女子 50kg 級】

東京オリンピック優勝の須崎優衣は不出場。昨年優勝で世界選手権を制した吉元玲美那（至学館大）が連覇を目指す。世界選手権のあとも全日本学生選手権 53kg 級に出場して優勝するなど、実力を見せている。

全日本選抜選手権 2 位の伊藤海（早大）がどう挑むか。全日本選抜選手権での吉元との闘いは 0-9 で、実力差は感じられたものの、全日本学生選手権で 1 年生チャンピオンに輝くなど力をつけている。

2020 年アジア選手権優勝の五十嵐未帆（明光ネットワークジャパン）、昨年 3 位の中村未優（Sports Design Lab）、全日本選抜選手権 3 位の坂本由宇（JOC エリートアカデミー／東京・帝京高）らが優勝戦線にからんでくるか。

---

## 【女子 53kg 級】

東京オリンピック優勝の向田真優は不出場。世界選手権優勝の藤波朱理（三重・いなべ総合学園高）の白星街道が続くか。2017 年秋以来、国内外で 83 連勝をマークしている。世界選手権で 4 試合連続、無失点でのテクニカルフォールという実力を発揮するか。

昨年大会と今年全日本選抜選手権で、いずれも敗れている 2018 年世界チャンピオンの奥野春菜（自衛隊）、2019 年世界選手権 55kg 級 2 位の入江ななみ（ミキハウス）が巻き返しを目指す。